
令和 2 年度施政方針

高石市長 阪 口 伸 六

本日ここに、令和2年第1回高石市議会定例会を招集申し上げましたところ、議員各位にはご多忙な中ご参集をたまわり、厚く御礼申し上げます。

また、平素は本市市政の運営に格別のご理解、ご支援、ご協力をたまわり、重ねて厚く御礼申し上げます。

本定例会では令和2年度予算案を中心にご審議を願うところですが、この機会に市政運営の基本的な考え方につきまして、所信の一端を申し上げます。

さて、現在、国会において令和2年度の予算の審議が行われています。わが国の経済情勢といたしましては、実質GDP成長率は平成30年度に0.3%まで落ち込みましたが、昨年10月の消費税率等の改正にもかかわらず、令和元年度は0.9%、令和2年度は1.4%と回復していく見通しであり、令和2年度予算における税収は、過去最高となる見込みで、それら歳入増をもとに歳出において幼児教育・保育の無償化など社会保障費の増で102兆6,580億円の過去最大の予算案が提案されました。

一方で、日本の人口は、少子高齢化の進行で、昨年比でその減少

幅は初めて50万人を超えるなど、深刻な状況となっており
ます。安倍首相を議長とする全世代型社会保障検討会議では、人生
100年時代を念頭に、社会保障の充実とともに女性の社会進出や
定年延長による高齢者などの雇用の拡大が本格的に議論されてい
るところです。そして、この人口減少に歯止めをかけるために、東
京一極集中を是正し、それぞれの地域で将来にわたって活力のある
社会を維持していくため、「地方創生」の取組みが、平成26年度
から進められてきました。

本市におきましても、従前から取り組んでまいりました学校施設
耐震化の完成や普通教室へのエアコン整備、学校ICTの取組み、
さらに民間活力の導入による幼保一元の認定こども園化で待機児
童ゼロの達成など、優れた学校教育施設と子育て支援の充実をふま
え、平成27年度に「高石市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を
策定し、子育て世代への情報発信の拠点として、子育てウェルカム
ステーション「HUGOOD」（ハグッド）の整備等を行い、これ
を「たかい、たかい、たかーい市」と、市内外にPRすることによ
り若年層の定住促進を進めてきました。その結果、若年層の人口が
転出増から転入増へと成果をあげてまいりました。

また、これにあわせて、健幸ポイント事業や健幸ウォーキングロードの整備による健幸のまちづくりを進め、特定健診の受診率の向上や医療費の抑制効果もあげ、コミュニティカフェの拡大等により、高齢者や障がい者が住み慣れた地域で生涯お過ごしいただける地域包括ケアの推進にも取り組み、それぞれ成果をあげてまいりました。

さて、国におきまして、昨年末に第2期の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定されており、令和2年度予算案の安倍首相の施政方針演説におきまして、「地方にこそ、チャンスがある！」と述べられ、同予算案の地方財政対策として「まち・ひと・しごと創生事業費」に約1兆円が計上されました。

そして、その第2期の総合戦略では、基本目標として「稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする」「地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる」「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」「ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる」の4つがあげられ、引き続き、地域で住みよい環境を確保し、少子高齢化、人口減少に歯止めをかけ、活力ある日本社会を維持していく取組みが盛り込まれております。

今般、これを受け、本市におきましても、第2期の「高石市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定いたします。これまでの基本的な方向性は維持しつつ、「多世代での人材育成・交流の推進」、「優良な地域資源の有効活用」、「民間活力によるまちづくりの推進」という3つの新たな視点を加え、「みんなが集い、住み続け、生涯活躍できる魅力あるまち たかいし」を目標とし、さらに、この中に4つの基本目標を設定いたします。

一点目に、「子どもを産み育てやすい環境を整える」として、これまでの待機児童ゼロの継続とともに、妊娠・出産から子育て期における切れ目のない支援や放課後児童健全育成事業の充実をめざしてまいります。

二点目に、「地域が稼ぎ、働きやすい環境を整える」として、二・三世代同居近居支援や市内企業従業者への住宅支援などを引き続き実施いたします。

三点目に、「いつまでも健幸にすごせる環境を整える」として、これまで成果を上げてきたスマートウェルネスシティ・健幸づくり事業を継続発展させ、若者から高齢者まで多様な世代にわたる健幸ポイント事業の拡大をめざしてまいります。また、人材バンクの活用、コミュニティカフェの整備及び在宅医療介護の連携などの地域

包括ケアの推進により定年退職後のいきがいくりと高齢者も暮らしやすいまちづくりを進めてまいります。

四点目に、「人が集い、住みたくなる環境を整える」として、地域活性化ブランド戦略による高石市の魅力の発信などを継続しながら、住みたくなる環境を整えるため、空き家対策、子育て世帯への支援などの住宅施策とともに、安全・安心なまちづくりの推進として、連続立体交差事業の完成や南海中央線の延伸を進め、居心地が良く歩きたくなるまちなかをめざし、「ウォーカブル推進都市」として、高石駅周辺活性化など地域資源のリノベーションに取り組んでまいります。

これら4つの基本目標の達成に向け、これまで成果をあげてきた取組みをさらに深化させ、継続するとともに、新たに地域資源を活用し、交流人口等の増加と「優良な雇用」の創出により、持続可能なまちづくりをめざしてまいります。

あわせて、教育施策について、これまで本市は交通の利便性が高く、コンパクトな市域に市立の小・中学校、公・私立の中学・高校、専門学校が集中しており、多くの学生が集う「教育のまち」として発展してきたことから、改めて「文教都市」として、その充実に力を入れてまいります。その一環として、国の方針に沿って、市立の小・中学校において、児童・生徒1人に1台のタブレット端末を整

備することで、学校 I C Tを活用した新しい授業スタイルを構築し、学力の向上に取り組んでまいります。

なお、只今ご説明してまいりました様々な取組みのための財源につきましては、地方創生推進交付金をはじめ、国の支援を最大限活用してまいります。当然のことながら市としても一定の財源を確保しなければならず、これまでの行財政改革～財政健全化を引き続き進めてまいります。とくに、総額 1 0 億円規模が予想される児童・生徒 1 人に 1 台のタブレット端末を導入する学校 I C Tにつきましては、これまで公共施設等総合管理計画等により検討してまいりました公共施設の整理統合や未利用地となる公有地の売却などにより財源の確保に努めてまいります。

それでは、令和 2 年度の主な施策の概要につきまして、本市の総合ビジョンである第 4 次高石市総合計画における 5 つのまちづくりの目標に沿ってご説明申し上げます。

はじめに、「ひとにやさしい育みのまち」についてであります。

安心して子どもを産み育てられるまちづくりを推進するため、妊

産婦の健康づくり施策として、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援をワンストップで行う「子育て世代包括支援センター」におきましては、市立母子健康センターとも連携し、妊産婦や乳幼児の家庭の状況によって日々変化する子育てに関する悩みや相談に対して、その方に必要な支援を行ってまいります。

また、子育ては一人で頑張るのではなく、多くの人の支援が必要であることから、妊産婦、乳幼児、その家族が気軽に立ち寄ることができる場所として、やさしさが感じられ和やかな雰囲気のもと、悩みや相談ごとを話すことができるように環境を整え、不安感や孤独感を解消し、安心して健康な生活ができるように、寄り添った支援を実施してまいります。

子育て支援施策につきましては、アプラたかいしに子育てウェルカムステーション「HUGOOD」（ハグッド）を開設し、開設以来15万人以上の方にご利用いただくなど成果をあげております。第2期におきましては、同施設にてイベントの開催などにあわせて、育児相談や就労支援を行うなど、さらなる施設の利用を促進し、充実した子育て・教育環境をPRすることで、定住促進を図ってまいります。

学校教育につきましては、令和2年度から小学校、令和3年度から中学校と順次、新しい学習指導要領が施行されます。未来社会を

生きる子どもたちに必要となる「21世紀型能力」すなわち基礎力・思考力・実践力を、主体的・対話的で深い学びを核とする学習活動を通じて身につけられるよう、ICT環境の充実、英語教育やプログラミング教育の実施など、「高石市教育振興基本計画」に基づき、着実に取組みを進めてまいります。

とくに、ICT環境につきましては、国のGIGAスクール構想に基づき、児童・生徒1人に1台のタブレット端末を整備し、新学習指導要領で求められている深い学びが得られる学習や、AIドリルを使った個別最適化の学習などに取り組み、新しいスタイルの授業を進めて、学力向上に取り組んでまいります。

いじめ問題につきましては、引き続き「高石市いじめ防止基本方針」に基づき、学校と密接な連携のもと未然防止・早期発見に努めてまいります。また、スマートフォンの普及によるネット上の新しいじめ問題についても、子どもたちから解決策を考える話し合いを開催し、いじめをなくし、学力低下につながらないように取り組んでまいります。これらの取組みを通じて、子どもたちが安心して楽しく学べる学校づくりにより一層取り組んでまいります。

また、児童発達支援センター松の実園及び総合保健センターで療育しておりますバンビグループにつきましては、津波浸水想定区域内に位置していることから、旧北幼稚園に移転し、子どもたちの安

全・安心な療育環境を整備し、令和4年度の開園をめざして取り組んでまいります。

社会教育におきましては、野外活動センターエリアを運動場及び野球場に隣接する立地を活かして、市内外を問わず多世代の方々がスポーツを通じて交流するコミュニティの場として、多くの方々の利用促進をめざしてまいります。

最後に、羽衣小学校プールは、現在、老朽化により閉鎖しており、あり方について検討してきましたが、今後、同校の学校水泳指導を民間へ業務委託することにより、専門的なインストラクターからの指導を取り入れ、子どもたちの泳力向上を図ってまいります。

今後、これらの検証結果をふまえ、他の学校の水泳指導のあり方につきましても研究を進めてまいります。

人権施策につきましては、高石市人権擁護に関する条例に基づき、あらゆる差別が解消され、人権が尊重される誰ひとり取り残さない社会づくり等を今後とも推進してまいります。

第2に、思いやり支えあう温もりのある「ひとにやさしい暮らしのまち」についてであります。

健幸のまちづくりにつきましては、公民連携による「高石市健幸

のまちづくり協議会」を立ち上げ、平成29年10月から、対象者を20歳以上に拡大して再スタートした健幸ポイント事業を、これまでの成果を踏まえて、新たに地域間連携も図りつつ、また、定員を3千人から4千人に拡大する予定です。無関心層も含め、これまで参加できなかった多様な市民の方が参加できるよう、さらなる事業の発展を図ることで、市民の身体活動量の増加を促し、生活習慣病の予防により、健康寿命を延伸し、いつまでも健幸にすごせる環境を整えてまいります。

地域福祉施策につきましては、地域共生社会の実現に向け、複合化・複雑化した地域生活課題を把握して解決を試みる「我が事・丸ごと」の地域づくり・包括的な支援体制の整備を図るとともに、「アプラたかいし」における集いの場、相談会等の実施や市内7郵便局と連携した「暮らしのサポーター」事業を実施しておりますが、令和2年度は、老人福祉センターにおける相談拠点機能を強化するなど、市民にとって身近な交流・相談拠点の整備を進めてまいります。

また、「地域住民の誰もが気軽に集い交流できる居場所づくり」の一環として、各関係団体と連携し、引き続きコミュニティカフェ等の拡充に努めてまいります。

高齢者施策につきましては、高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画に基づき、団塊の世代が75歳以上となる令和7年を見据え、

地域包括ケアシステムの構築に向け医師会、介護事業者等と連携し、在宅医療介護の連携支援に取り組むとともに、介護予防及び要介護状態の重度化防止に向け取り組んでまいります。

また、利用者も増え、好評をいただいている福祉バスにつきましては、アンケート結果などから市民のニーズをふまえて、さらなる利便性の向上に努めてまいります。

なお、老人福祉センター瑞松苑につきましては、老朽化が進んでいることから、より堅固な高石市コミュニティセンター（デージードーム）に移転統合し、コミュニティセンター機能と老人福祉センター機能を、これまで以上に有効に活かした複合施設としてリニューアルすることで、機能の拡充・強化を図り、高齢者福祉と地域コミュニティの拠点とともに、新たな集いの場として、より一層の利用促進を図ってまいります。

障がい者施策につきましては、手話への理解の促進及び手話の普及を図り、すべての市民が相互に人格及び個性を尊重し、心豊かに生きることのできる地域共生社会の実現をめざし、引き続き、より実効性のある「高石市手話言語条例」の制定を検討してまいります。

生活支援施策につきましては、生活に困窮する方が早期に社会的・経済的に自立できるよう、生活困窮者自立支援事業のさらなる充実を図るとともに、生活困窮世帯の子どもたちの学力の向上を図るた

め、引き続き学習支援事業を実施してまいります。

第3に、「ひとにやさしい安全・安心なまち」についてであります。

国では、大規模な自然災害等に備えるため事前の防災・減災と迅速な復旧復興等に備えた強靱な国づくり、地域づくりを進めるために、国土強靱化に取り組んでおります。

本市におきましても、令和2年度において国土強靱化地域計画を策定し、さらなる安全・安心のまちづくりを進めてまいります。

本市ではこれまでも、今後、発生が懸念されている南海トラフの地震津波や直下型地震等の災害に備え、ハード・ソフト両面にわたり様々な防災対策の充実・強化に取り組んでまいりました。

近年、全国的に被害が発生している台風、地震等の大規模な災害などに対応するため、国や大阪府の各防災計画等との整合を図るとともに、防災関係機関などが示す新たな知見の反映を行うため、本市の地域防災計画について見直しを行ってまいります。

また、今後、大阪府等から示される洪水や高潮、内水等の新たな浸水想定区域図をもとに総合的なハザードマップを作成し、本市の防災・減災対策の強化に取り組んでまいります。

さらに、災害時などにおける情報伝達手段として、これまで、市内に防災行政無線の整備を進めてまいりましたが、情報伝達手段の多様化として、放送された内容を確認できるように、電話応答装置の整備を行ってまいります。

本年も引き続き、「防災シンポジウム」や「まちづくり勉強会」を開催し、防災意識の向上を図るとともに、各自治会や自主防災組織に「地区防災計画」の策定を促し、地域の防災力の向上に取り組んでまいります。「津波防災の日」である11月5日には、全ての市民、学校園、企業の皆様並びに防災関係機関にもご参加いただき「地震津波総合避難訓練」を実施し、防災意識の向上を図ってまいります。

消防につきましては、昨年10月に、高石消防署高師浜出張所において救急隊の増隊が行われ、出場から現場到着までの時間が短縮されるなど、増加する救急需要に対して速やかな対応が図られました。今後も引き続き、堺市消防局と連携を図りながら消防力の強化に努めてまいります。

防犯対策につきましては、登下校防犯プランに基づき、新たに通学路に防犯カメラの設置を行いました。今後も高石警察署と連携を図り、より安全・安心なまちづくりをめざした取組みをさらに進めてまいります。

蓮池公園につきましては、令和元年度に事業認可を取得し、用地買収に取りかかりました。令和2年度につきましても、精力的に用地買収に取り組み、みどり豊かな市民の憩いの場、スポーツ・健康づくりの場として、また、災害発生時には防災機能を備えた防災拠点となる公園整備の早期完成に向け、事業を進めてまいります。

南海本線・高師浜線連続立体交差事業につきましては、令和3年5月の南海本線上り線高架化に向け工事を進めるとともに、上り線完了後の高師浜線高架化に向けた準備工事に取り組んでまいります。引き続き、本市域での全線の早期完成をめざし、大阪府や南海電鉄と協議しながら事業を進めてまいります。

南海中央線整備事業につきましては、引き続き、東羽衣地区の用地買収を計画的に進め、早期完成をめざし取り組んでまいります。

また、新村北線以北の区間である東羽衣第2地区につきましても、令和2年度に事業認可を取得し、土地開発公社の保有地について買い戻しを完了します。これにより、本市財政健全化の重点課題でありました同公社の清算と解散については、当初の予定通り、令和2年度末に完了します。

取石418号線につきましては、引き続き用地買収の完了に向け交渉を行い、早期開通をめざし事業を進めてまいります。

下水道事業につきましては、令和2年度より地方公営企業法を適

用し、計画的な経営基盤の強化と財政マネジメントの向上を図ってまいります。また、将来にわたり安定的に事業の継続が可能となるよう、中長期的な経営の基本計画である経営戦略の策定を通じ、さらなる経営基盤の強化に努めてまいります。

羽衣ポンプ場につきましては、引き続き耐震・津波対策工事を実施してまいります。さらに、ストックマネジメント計画に基づいた管路及び施設の更新にも着手してまいります。また、生活環境の改善・公共用水域の水質保全、浸水対策に寄与するために、未整備地区の雨・汚水管渠の整備を進めているところであり、平成30年度末の整備率は89.7%となっております。

水道事業につきましては、急速な人口減少社会を迎え、より効果的、効率的に安定した水道を供給するため、引き続き老朽管更新事業及び配水場の長寿命化工事を実施してまいります。また、高石市水道事業ビジョンに基づき、災害時の給水活動を円滑に行うことができるよう、給水車の導入や緊急用備蓄品の充実を図ってまいります。

今後は、大阪広域水道企業団との広域連携の強化、さらには統合に向けた検討を進め、安全・安心で安定的な水道事業の運営に努めてまいります。

第4に、「環境にやさしいまち」についてであります。

市民の皆様のご理解・ご協力により、ごみの減量・再資源化が進んでおります。

国においては7月からプラスチック製レジ袋が有料化されることから、本市においても、市民へのエコバッグの使用促進に取り組むなど、引き続き、資源循環型社会や低炭素社会の形成に向け、取り組んでまいります。

また、泉北環境整備施設組合として賛同を表明している環境省の「つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト」に関連し、本市としても高師浜の砂浜の保全や稚魚の放流等、自然環境の保護に取り組んでまいります。

また、高石市受動喫煙・路上喫煙等対策の総合的推進に関する条例が、本年4月から施行いたします。望まない受動喫煙による健康被害の防止、喫煙マナー及び環境美化意識の向上を図るため、受動喫煙、路上喫煙、吸い殻のポイ捨ての防止などの喫煙等対策につきまして取組みを進め、市民等の健康増進及び安全かつ快適な生活環境の確保に努めてまいります。

第5に、「地域活力あふれるまち」についてであります。

地域振興施策につきましては、観光資源として“工場夜景”の魅力を高石商工会議所や全国工場夜景都市協議会、堺市などと協働し、公民一体となってこれからも全国へ向けて発信いたします。また、シティプロモーションとして好評をいただいている「走る！工場夜景」ラッピング列車も継続し、SNS等を用いて引き続き広くPRに努めてまいります。

高石市ブランド戦略の一環で地域活性化を目的としてスタートしました、本市の一大イベント「高石シーサイドフェスティバル」につきましては、本年で8回目を迎えます。年々来場者も増加しており、昨年は3万9千人を超える方に楽しんでいただいております。今後も市内外へ本市の魅力を情報発信し、集いの場として交流人口の増加を図り、さらに定住促進にもつなげるべく、充実・発展させてまいりたいと考えております。

旧市民会館・図書館跡地につきましては、検討委員会で策定いたしました活用方針をもとに、民間活力を導入し、地域への貢献度を高め、魅力的な集客施設を誘致できるよう、具体化に向け取り組んでまいります。

産業振興につきましては、高石市企業立地等促進条例を平成19年に制定以降、昨年末までに大企業・中小企業あわせ約450億円

の投資申請をいただきました。今後も、この企業立地促進条例の活用も含め、多くの企業が積極的な設備投資をしていただけるよう引き続き支援してまいります。また、JXTGエネルギーが大阪製油所の精製機能の停止を決定したことをふまえ、国、大阪府にも協力いただき、本年1月に立ち上げた「臨海コンビナートの今後を考える勉強会」につきましても、企業間の連携及び臨海コンビナートの再構築等について意見交換など検討を進めてまいります。

また、地方創生の一環として、旧保健センターをリノベーションし、高齢者なども含めて集い、賑わいを創出できる収益施設を兼ねた多世代交流の拠点等として整備してまいります。

中小企業の支援につきましては、中小企業の経営の安定を図るため、利子補給制度を引き続き実施するとともに、市内の空き店舗等を有効活用し、創業・起業希望者の事業化に向け、人材育成などの支援に商工会議所等と連携し取り組んでまいります。

就労支援につきましては、子育て世代の女性を対象とした「マザーズ就活支援事業」などの就労支援策を、引き続きハローワークと連携して実施してまいります。

農業施策につきましては、野菜の栽培など農作業を通じて、多世代の交流や健康増進の場である健幸コミュニティー農園の利用を促進し、都市農業の保全に努めてまいります。

漁業振興につきましては、本年４月に高石漁港が大阪府から移管されますが、これにあわせ、現在、大阪府により防潮堤等の施設整備が行われております。今後とも大阪府、高石市漁業協同組合等と連携し、漁港の適正な管理とさらなる水産業の振興に向け、取り組んでまいります。

次に、本市の主要駅の周辺整備についてであります。

羽衣駅周辺につきましては、羽衣駅前再開発事業により、昨年８月に再開発ビル「イコーネはごろも」と南海本線羽衣駅とＪＲ東羽衣駅を結ぶペデストリアンデッキ「天女のこみち」が完成した事で、バリアフリー化により暮らしやすく、交通結節点として、安全かつ利便性が飛躍的に向上しました。今後も引き続き連続立体交差事業の進捗状況と調整を図りながら、周辺道路や駅前広場の整備を進め、さらなる駅周辺の活性化、賑わいのあるまちづくりに向け取り組んでまいります。

高石駅周辺につきましては、令和３年５月の南海本線上り線高架化を予定しており、これにより商業圏が繋がることから、地方創生の一環として官民連携のプラットフォームを組成し、駅周辺エリアを一体的に整備することにより、多世代が交流し活躍する高石駅周辺の地域資源のリノベーションに向けた取り組みを進めるとともに

に、駅西地区についても課題の解決に取り組んでまいります。

富木駅周辺につきましては、駅西側の改札の整備や駅ホームの視覚障害者のための内法線付き点字ブロックなど、バリアフリー化も完了したところです。今後、富木駅東側の整備につきましても検討を進めてまいります。

最後に、本市の第4次高石市総合計画は、「人間都市・高石」を都市目標に、「市民主体のやさしさと活力あふれる健幸のまち」を基本理念に設定して取り組み、成果を上げてまいりました。今後は、次期第5次高石市総合計画の策定に向けて取り組んでまいります。

以上、令和2年度の主な施策の概要につきまして、ご説明申し上げてまいりました。

市民の皆様が夢と希望あふれるこの愛すべき郷土（ふるさと）高石市のさらなる飛躍・発展をめざし、今後とも、職員一丸となり「ワンチーム」で取り組んでまいります。

引き続き、議員各位と市民の皆様の温かいご理解とご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げ、令和2年度の施政方針とさせていただきます。